様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	言語系コース（英語） ／伊東　治己

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教育大学教員としての授業実践

本学の目的は，豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し，学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには，教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が，学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは，教員養成大学の教員として，本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか，これまでの取り組み状況を総括し，具体的に示して欲しい。

1．目標・計画

①授業内容
（ア）自己の専門性（教科教育学）の活かし，教育実践への関連性をなお一層高める努力をする。
（イ）英語教育界の最近の動向を反映させ，授業内容の今日性を高める努力をする。
②授業方法に関して
（ア）パワーポイントなどを活用し、授業内容の提示方法を工夫する。
（イ）学生が主体的・積極的に授業に参加できるよう，授業形態を工夫する。
③成績評価
（ア）採用試験を視野に入れ、極力筆記試験を実施する。
（イ）最終評価に当たっては、多様な角度から学生の学力を評価できるようにする。

2．点検・評価

①授業内容に関しては、
（ア）自己の専門性（教科教育学）の活かし，教育実践への関連性をなお一層高めた。
（イ）英語教育界の最近の動向を反映させ，授業内容の今日性を高めた。
②授業方法に関しては、
（ア）パワーポイントなどを活用し、授業内容の提示方法を工夫した。
（イ）学生が主体的・積極的に授業に参加できるよう，マイクロティーチングの手法を取り入れるなど、授業形態を工夫した。
③成績評価に関しては、
（ア）採用試験を視野に入れ、すでに前期の試験で筆記試験を実施した。
（イ）最終評価に当たっては、多様な角度から学生の学力を評価できるようにした。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

①オフィスアワーやゼミ等をフルに活用し、個々の学生の能力や希望に応じた学習支援を行う。
②海外研修や留学に関する相談に随時応じて、学生による国際交流活動を促進する。
③英語コミュニケーションⅤ（学生海外派遣プログラム）を実行し、本学学生に海外生活体験の機会を与える。
④留学生が本学での留学生活をスムーズに行えるよう，学業面・生活面で支援する。

２．点検・評価

①オフィスアワーやゼミ等をフルに活用し、個々の学生の能力や希望に応じた学習支援を行った。
②海外研修や留学に関する相談に随時応じて、学生による国際交流活動を促進した。その結果，１名のゼミ生（大学院生）が米国に留学した。
③英語コミュニケーションＶ（学生海外派遣プログラム）については、すでに本年度の実行計画を策定し、参加者を募集したが，生憎平成23年度は参加希望者数が最低催行人数（10名）に達しなかったため，やむなく中止することになった。
④留学生が本学での留学生活をスムーズに行えるよう，学業面・生活面で支援した。なお，平成23年度は，２名の正規留学生（インドネシアと中国），１名の教員研修留学生（インドネシア），１名の博士課程研究生（中国）の指導に当たった。

Ⅱ－２．研究

１．目標・計画

①従来からの研究テーマ（英語教育学）をまとめ、学会で口頭発表をする。
②従来からの研究テーマ（英語教育学）をまとめ、学会誌に投稿する。
③現在特に力を入れているフィンランドの英語教育に関する研究をさらに進める。

２．点検・評価

①従来からの研究テーマ（英語教育学）をまとめ、四国英語教育学会、フィンランドのユバスキュラ大学で開催された国際学会、全国英語教育学会で学会で口頭発表をした。
②従来からの研究テーマ（英語教育学）をまとめ、本学小学校英語教育センター紀要、四国英語教育学会紀要、全国英語教育学会紀要，英語授業研究学会紀要，教育実践学論集（兵庫連合大学院）に投稿し，そのすべての論文が掲載された。
③現在特に力を入れているフィンランドの英語教育に関する研究については、個人の科研費研究とグループでの科研費研究のため、３月と9月にフィンランドを訪問し、研究調査を行った。

Ⅱ－３．大学運営

１．目標・計画

①小学校英語教育センター所長として、大学の運営に参画するとともに，同センターの存在感のさらなる強化を図る。
②国際交流委員会委員として，本学の国際交流事業に貢献する。
③言語系コース（英語）の一員として，コース運営はもちろんのこと，大学運営にも積極的に貢献する。
④連合大学院言語系教育講座の主指導教員（指導学生は3名）して、同講座の運営に参画するとともに、同講座における本学の存在感を強めることに努力する。

２．点検・評価

①小学校英語教育センター所長として、大学の運営に参画するとともに，同センターの存在感をさらに強化するため努力した。
②国際交流委員会委員（副委員長）として，本学の国際交流事業に貢献している。具体的には、7月に台湾で開催された日本留学フェアーに参加すると同時に、新しく国際協力協定を締結した台北市立教育大学を表敬訪問した。
③言語系コース（英語）の一員として，コース運営はもちろんのこと，大学運営にも積極的に貢献した。
④連合大学院言語系教育講座の主指導教員して、同講座の運営に参画するとともに、同講座における本学の存在感を強めることに努力した。なお，平成23年度は3名の院生（うち2名は現職教員）と1名の研究生（中国からの留学生）の指導に当たった。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

①附属学校での研究会に積極的に参加するとともに，同校教員と連携し英語教育分野について協同研究を進めるともに，附属学校での国際交流にも貢献する。（附属学校）
②教育委員会等から委嘱された委員会活動や講演活動，ならびに本学主催の公開講座や教育支援講師・アドバイザー等制度などを通じて，大学と地域・社会との交流・連携を積極的に行い、社会貢献に努める。（社会連携）
③国際交流協定校をはじめとした海外の教育・研究機関との協力事業に貢献する。（国際交流）

2．点検・評価

①附属学校で開催された研究会に参加するとともに，同校教員と連携し英語教育分野について協同研究を進めた。
②教育委員会等から委嘱された委員会活動や講演活動，ならびに本学主催の公開講座や教員免許状更新講習，さらには各地の教育委員会主催の教員研修講座や教育支援講師・アドバイザー等制度などを通じて，大学と地域・社会との交流・連携を積極的に行い、社会貢献に努めた。
③国際交流協定校をはじめとした海外の教育・研究機関との協力事業に貢献した。具体的には、7月に台北市立教育大学を表敬訪問した。米国のイーストキャロライナ大学には指導学生（院生）を1名派遣している。また、フィンランドのユバスキュラ大学からは、平成24年1月から同年6月の予定で，地域連携センターの客員研究員の制度をとおして、研究者を招聘し、小学校英語教育担当教員の養成と研修についての共同研究を行っている。なお、平成23年度は2名の正規留学生（インドネシアと中国），1名の教育研修留学生（インドネシア），1名の博士課程研究生（中国）の指導に当たった。

Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）

○小学校外国語活動が平成23年度から高学年において必修化されたことを受けて，平成24年度学部新入生から「小学校英語教育論」を必修科目として開講するというカリキュラム改革を行ったが，その改革において中心的役割を担った。小学校英語教育に関する研究や教員研修の充実は本学の中期目標のなかでも重要な施策になっており，今後も小学校英語教育に関する研究・教員研修の充実に向けて努力し，本学の中期目標の達成に貢献していきたい。
○博士課程の学生の本学への入学が年々少なくなっている傾向にあるが，平成23年度もあらたに1名の新入生（現職教員）の指導教員となり，連合大学院における本学の存在感の維持に貢献することができた。なお，平成23年度は合計3名の正規の大学院生と1名の研究生の指導教員を務めた。
○小学校英語教育についての共同研究を行うため，フィンランドから1名の客員研究員，1名の国際学術研究員を招聘し，本学の国際交流に貢献した。